

# 全体提案記録

## 1 教育研究会国語部会テーマ

平成21年度より「基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、活用する学習の構築」をテーマに掲げ、研究してきている。本年度は、小学校学習指導要領全面実施を迎えた。その学習指導要領総則編において、「習得」と「活用」が改訂のキーワードとして重要視されている。

### (1) 知識・技能の明確化

これまでは、活動指示に終わり、そうするための基礎的・基本的な知識及び技能を十分に教えていないことがあった。そのため、内容の読み取りがねらいのようになり、国語科として、どのような力が必要なのかが、曖昧なまま終わってしまうことも多かったように思う。実践にあたる際には、身に付けさせたい知識・技能を教師が明確にもっておかなくてはならない。



- ① 指導事項の具体化を図ること
- ② 発達の段階をとらえること
- ③ 子どもに「知識・技能」を意識させること

### (2) 目的意識をもった言語活動の単元化

言葉への信頼が薄くなってきている昨今、言葉の信頼を取り戻すためにも、目的をもった言語活動を通して、言葉が生きて働いたのだという実感のある学習を構築する必要がある。そのためには、一つの題材で閉じる学習では弱いため、言語生活とつなぐ必要がどうしても生まれてくる。それが「単元化」であり、新学習指導要領の理念や内容は、単元学習の理念や内容と重なる部分が多い。



- ① 子どもの思いに働く教材開発
- ② 言語活動の過程を明確にし、それぞれの過程における評価基準を設定しておくこと
- ③ 言語活動を有機的に結び付けて領域関連をはかること

## 2 東かがわ市立本町小学校 四国大会テーマ

- ・ 教育目標 夢と希望にあふれ、すすんで取り組む児童の育成
- ・ 児童像 よく考え、表現できる子・支えあう、やさしい子・健康でねばり強い子
- ・ 研究主題 言葉を通して学び方を学び、生かす指導方法の工夫

### 研究の視点

- 1 「読む」「書く」「話す・聞く」を相互に関連させる言語活動の工夫
- 2 学習を支えるスキル教材の工夫と活用
- 3 言語環境の整備と言語感覚を養うための他教科との関連

### 研究仮説

- ① 「読む」「書く」「話す・聞く」を関連させた言語活動の工夫が思考力・判断力をはぐくむ関心・意欲・態度を高めるのではないかと。
- ② 付けたい力の明確化、スキル学習の取り入れ、学年の系統性を見直すことで、確かな

読み取り，表現へとつながるのではないか。

- ③ 言語による体験を取り入れたり，他教科での学習と関連付けたりすることで，言葉に対する感性や言語感覚を養い，豊かな表現力へとつながるのではないか。



仮説を実証するために…

○ 研究の具体

- ・ 一単元一言語活動・・・受動的な学習ではなく，意欲や実態を大切にした，目的をもった主体的な読みの取り入れ
- ・ 並行読書の推進
- ・ 言語活動の工夫・・・言語活動設定プロセスシートの作成，活用
  - ①各学年の系統性の洗い出し
  - ②指導案のスタイル変え  
(言語活動，主領域，関連を図る視点の明記)
  - ③発達段階に応じた学習の支援
- ・ スキル学習の年間計画の作成，活用
- ・ 言語環境の整備・・・地域の人材開発  
学習のキャラクター作り  
他教科との関連付け